

# 病理検査に高い評価

## AKH研究センター(秋田市)

がんの診断などに必要な病理検査を手掛ける秋田市の株式会社「秋田病理組織細胞診(AKH)研究センター」(阿部一之助社長)が、日本政府の支援でカン

ボジア・ブノンペンに進出した病院から病理診断を受託した。高精度の検査技術と写真を添付する報告書の分かりやすさなどが評価され、依頼を受けた。

病理診断は、患者から採取された臓器や細胞を肉眼や顕微鏡で観察し、病気やその進行具合などを判定する医療行為。病理医がガラス標本を作り、細胞の配列などを見て病気を判断する。AKHは子宮頸がん検査などで異常細胞を見つけ出す細胞診、病変の一部を採取して調べ、生検などの病理検査を手掛けている。

臨床医に届けられる診断報告書は文章のみで作成されるのが一般的だが、AKHは臨床医が患者に説明しやすいよう細胞像を撮影してカラーで添付、他の検査機関と差別化を図っている。依頼は年々増加し、県内や東北の病院・診療所から年約7万5千件を引き受けているとい

## カンボジアの病院依頼

今年17日に開院。全50床で、救命救急センターなどを設ける。日本人医師や日本で研修を受けたカンボジア人スタッフらが常駐、健康診断などを含む日本の水準の医療サービスを提供

う。ブノンペンの病院は、プラント建設大手の日揮、東京都八王子市の北原国際病院の運営法人などの合弁会社が設立した「サンライズ・ジャパン・ホスピタル」。日本医療の海外展開の一環として、日本政府が設立を支援してきた。

が欠かせないため、秋田大医学部と協力し、独自性を発揮するAKHに白羽の矢が立った。今後は臨床医が採取した検体がカンボジアから空輸でAKHに届けられ、その病理解析結果を1週間以内メールで送る。現地で顕微鏡用のガラス標本を作ることであれば、日本国内



病理診断を手掛けているAKH研究センター＝秋田市雄和

と同様、手術中にデータを送ってもらい迅速な遠隔診断が可能になる。そのため技術支援を目的に現地への社員派遣も検討するという。

AKHは人口減対応として海外進出を経営計画に盛り込んでおり、カンボジア以外にも病理診断を引き受ける考え。阿部社長は「地方の会社でもこうした取り組みができることは誇りだ。海外展開の起爆剤としたい」と話す。

カンボジアでは多くの患者が近隣諸国へ高度な医療サービスを求めて出ており、患者負担の軽減が課題となっている。2013年11月に行われたブノンペンでの首脳会談で、安倍晋三首相が日本の高度な医療システムを提供する覚書をフン・セ首相と交わしていた。(小川颯)

大

大阪府寝屋川市入試

が波紋が広がって、も女子学生を加え、学側は「興味」と「科学省重視し、解を与

震 5 夏 皮 質 質 サ バ 2 性 を判定する「応急危険度判定」が活動を目的、富吉市 三朝町では温泉客のキャンアを求めている。 具袋書対策本部とは原本具